

きれいな水、お墨付き

五ヶ瀬川水系4地点 水生生物で判定

国交省九州地整

国交省九州地方整備局は3日、管内の1級河川で2018年度に実施した水生生物による水質の簡易調査結果を公表した。調査89地点のうち、「きれいな水」の指標生物が多数出現した宮崎県

の五ヶ瀬川、小丸川、大淀川など9水系を良好な水質と判定した。中でも五ヶ瀬川水系の4地点はもっとも良好な水質階級を示した。

河川にすむサワガニやカワゲラなどの生物は、水の汚れの長期的・複合的な状況を反映し、生物の種類を調べることで河川の水質が分かる。同省と環境省は1984年度から、小中学校生などの協力で簡易調査を継続的に実施。水辺に親しみ身近な川の環境に関心を持つ機会となっている。

18年度調査は昨年5月から10月にかけて、小中学生や一般市民など99団体、計3599人が参加して20水系89河川で実施。「きれいな水」にすむカワゲラ類から「とてもきたない水」にすむアメリカザリガニまで指標生物29種類のうち26種類を採取。「きれいな水」が62%、「ややきれいな水」が35%、「きたない水」が3%と分類した。

調査は、九州保健福祉大生や延岡小児童、こぼと児童館、黒岩小中PTAなど5団体118人が参加して、五ヶ瀬川・吉野地区(7月28日)▽祝子川・桑平橋上流(8月18日)▽北川・永代橋下(9月8日)▽大瀬川右岸・大瀬大橋下流(9月25日)の4カ所で行った。いずれの地点も、カワゲラ類、ナガレトビゲラ類、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボなど「きれいな水」にすむ生物を採取し、「きたない水」にすむ生き物は採取されなかった。

五ヶ瀬川水系は、1年間に測定したBOD(生物化学的酸素要求量)の平均値を河川ごとに集計し、「きれいさ」をランク付けする17年度水質現況調査でも、環境省が定めるBOD値が基準以下の「水質がもっとも良好な河川」の上位にランクイン。化学的な調査でも5年連続で「水質日本一」を継続している。



延岡小児童73人が参加した水生生物調査(昨年9月25日、大瀬大橋下流の大瀬川) 国交省提供

同省延岡河川国道事務所(田浦峰星所長)管内